

## 審議会等の会議結果報告書

【担当課】 図書館

会議の名称	平成29年度第4回図書館協議会		
開催日時	平成30年3月15日(木) 午後4時00分～5時30分		
開催場所	茅野市図書館 2階会議室		
出席者	矢崎委員長、岩崎副委員長、大石委員、田村委員、両角委員、山田教育長、平出生涯学習部長、藤森生涯学習課長、五味図書館長、濱主事		
欠席者	松井委員、福田委員、折井委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容		
図書館長	1 開会		
教育長	2 教育長あいさつ 先日病院へ行ったときに、小学生ぐらいの子が自分から病院にある本を取ってきて、どんどん読み出ししていた。2組の親子のお母さんが読み聞かせもしていた。以前にも話したが、図書館で子どもを抱きかかえたお母さんの乳母車から図書館の貸出袋が出てきたことがあった。その時の思い出と病院での思い出が重なった。今回は運営報告があるが、みなさんのお知恵と支えがあってできた内容だと思う。ありがとうございます。読り一むinちのさんの活動、読み聞かせボランティアさんの活動などもあって、市民の方々の読書活動が基盤になってきたため、病院で出会ったお子さんのような姿が自然に生まれてきたのかなと思う。よろしくお願いします。		
	3 審議会の公開について		
	4 議題 (1) 平成29年度図書館運営報告について		
矢崎委員長	相互貸借の借入が多いようだが、利用者の要望にできていないということではないか。		
図書館長	マンガ関係など細かな統計はわからないが、そういった傾向は強いと思う。		
矢崎委員長	岡谷などマンガ関係は多いのか。		
図書館長	29年度から予約に関しては、早く用意ができたところから物流で送るようになったため、その内容を見て茅野市の図書館でも選書のひとつとしている。茅野市図書館では文庫や新書などは棚の中で埋もれて見えなくなることがあるため、岩波新書だけは別置の棚に置いたりしているが、あまり買わないようにはしている。リクエストがあって必要なら買うというふう		

	にしている。
矢崎委員長	相互貸借の貸出も貸出冊数には入ってくるのか。
図書館長	入ってくる。
岩崎副委員長	本を探す時に表紙が見えないと、思い出せないことがある。茅野市中を検索して調べても、リストは出てきても、本の表紙が出てこない。潜在的な利用者に向けての良いサービスになるのではないか。図書館に来た人は本が並んでいるから探している本は見つけることができる。それだけではなく、図書館に来なくてもネット上で検索をするだけで何か得るものがあるのならそれも大きなサービスになるのではないか。家庭読書を支えていくためにもやっていく必要があるのではないか。
図書館長	現在のシステムを導入する際に、そのような議論もあった。データの容量が増え、サーバーを大きくするとなるとかなりの費用がかかる。今回のシステム更改では、今までのシステムの予算の中でよりよいサービスにしようということになった。次の更改のときでないと、難しいと思う。
岩崎副委員長	どっとネットを使えばいいのでは。
図書館長	そことリンクできるかはよくわからないが、本の表紙を載せるとなると茅野市だけの機能にはできない。茅野市単独のシステムであれば予算要求をしてバージョンアップも認めてもらえば可能かと思うが。
矢崎委員長	<p><b>(2) 第3次茅野市こども読書活動推進計画について</b></p> <p>大人に発信するにはネットを使うなどいくつかできるかと思う。</p>
平出生涯学習部長	大人の人で新規の利用者を開拓することは茅野市の場合難しい感覚はないか。大人で図書館に来る人はある程度本好きの人だと思うから、わざわざ図書館に出かけようとする意識改革は難しいように思う。ただ子どもを育てていて本に触れさせようとなる時が、お母さんの意識が変わるときだと思う。子どもが付随すると大人たちも意識が変わることを伺った時に、子どもに読ませた方がいいと思う本を選書するなどの方へシフトしていくことは難しいか。
図書館長	参考までに、茅野市図書館の貸出者数は年間6万5千人だけれども実人数は8千5百人ぐらい。そのうちの7千5百人ぐらいが茅野市民、住民。1割強ぐらいが茅野市図書館を利用していた。それが多いのか少ないのかの比較や、その中で子どもがどれくらい借りているかなどの計算はしていない。
岩崎副委員長	図書館の十進分類法はよくできていて、本を探しに行くとその本に係る本が並んでいるため、つい手に取ってしまうようになっている。読み聞かせや、本を並べるときにファーストブックはこれだけですよ。ではなく、子

	<p>ども向けのおやつの本や、保育園に持っていくバックの作り方の本をいっしょに置いてみたりなどすれば、お母さん方は子どもの本を探しに行きながら、自分に必要な本もそこで得ることができる。そうすれば図書館に対する信用も得ていくことができると思う。</p>
図書館長	<p>児童担当と選書担当の方では、そのようなこともしていきたい。という声も上がっているが、他の図書館に比べて棚が多くない。そのためたくさん本を出すか、書庫もいっぱいのため、その本を書庫にしまおうにもしまえないので、本を除籍しなければいけなくなってしまう。どっちをとるかとなり、児童の方でも本は一冊でも置いておきたいという考えで、やりたいたって思ってもできないのが現状。児童コーナーの中でいろいろ工夫はしているが、職員の中でももう一度話して検討をしたいと思う。</p>
平出生涯学習部長	<p>分類を分けるとめっちゃめっちゃになって、整理整頓が難しくなるということか。</p>
図書館長	<p>はい。コーナーを設けると、そこが固定されてそこへ他の本が置けなくなり、より処分の方へ回さなくてはいけなくなるので茅野市図書館ではあまりコーナーは設けないようにしている。</p>
平出生涯学習部長	<p>何か仕掛けとなれば、今までの規則をある程度壊すしかないと思う。どこへ向かっていくのが一番茅野市らしいかをしっかり掴んでいかないとはいけないと思う。図書館に足を運んでもらうためのターゲットをどこに定めていけばいいのか考えていけたらと思う。</p>
図書館長	<p>0123広場からの要望で、昨年お父さん向けの本のリストをこちらで作成し、茅野市図書館でのおすすめ本として紹介してもらった。ただそこには字だけなので本の表紙を入れて、イメージを浮かべて図書館へ来ていただけるようにしなければいけないと思う。そういったところへリストを置いていただくのも手段のひとつかなと思う。</p>
平出生涯学習部長	<p>違う方向へ向かうことができていると思うが、手間がかかってしまうところがある。</p>
両角委員	<p>図書館での滞在時間は1人当たり長いのか。</p>
図書館長	<p>計ったことはないが、朝から閉館間際までいる方もいる。</p>
両角委員	<p>子どもを連れてきたときに、時間に余裕がないとそのへんにある本をサッと借りるだけになってしまう。</p>
図書館長	<p>カウンターに児童担当がいなくなったのが大きいかなと思っている。気軽に相談ができない現状だと思う。</p>
両角委員	<p>今年度あったハッピーバックは普段手に取らない本を借りる良い機会であ</p>

	<p>ったため、とてもよかったと思う。</p>
図書館長	<p>毎年やっていて名称を「本の福袋」などにして、袋の中は何が入っているかわからないものもあれば、「料理」などのジャンルだけ表示して並べたりしている。平成30年度はまだどのようにやるかは検討しているところ。</p>
矢崎委員長	<p>常時そういうものがあってもいいように思う。</p>
藤森生涯学習課長	<p>来年度諏訪東京理科大学出前講座はなぜ今年度よりも回数を減らすのか。</p>
図書館長	<p>開館時間延長に伴い、児童カウンターにもう少し長い時間滞在するようにしたいところがある。1年間様子を見ないといけないところもあり、今年度6回の企画はカウンターがおろそかになったり、フロアワークがおろそかになってしまったことがあったため、体制を見直す関係で回数を減らした。31年度以降に再度検討をしていくようにした方がいいとなった。</p>
藤森生涯学習課長	<p>このような講座をやることによって、新たな利用者が増えるきっかけになるかと思ったが。</p>
図書館長	<p>茅野市に限らず以前から言われていることだが、講座などのイベントをしてそれが利用者に結びつくという講座は開かない方がいいという話がある。その講座だけで完了してしまう参加者がほとんどだということ。図書館としてこんなこともしているというPRの1つとしてやるならいいということだった。</p>
藤森生涯学習課長	<p>20代～30代の親は茅野市のホームページから図書館のホームページを見ると、あまり見ない気がする。どっとネットもひとつの利用方法なのかなどと思う。子育て世代の親が子どものためにいっしょに連れてきたときに、その親が借りられるような状況に持っていかなければいいなど思う。</p>
山田教育長	<p>図書館に来てもらう、来させるという発想は捨てた方がいいように思う。本が好きという層には大きく見て3つの層があると思う。①図書館の雰囲気を楽しんでいる人 ②ネットを通して本を買う人たち ③本とは全く関係のない人たち 図書館には来ないけれど、ネットを通して本を買う人たちの②の層が今はかなり多いと思う。②の層たちを引きつけるためには、図書館に来なくても図書館の本を活用できることが必要。そうすれば学校図書館との連携も子どもの本だけでなく、大人の本を見て参観日に学校図書館やコミュニティセンターに借りにくるなどの工夫もできると思う。</p>
田村委員	<p>「図書館でティータイムを」の参加者が非常に多いことから、図書館の中で料理教室だとかやることは難しいとは思っているのだけれども、図書館に置いてあるこの本を使っていますなど関連させることはできると思うので、体</p>

	<p>験学習など考えていった方がいいのではないか。</p>
図書館長	<p>以前「火の使わない料理」というのを図書館でやったことはある。参加者はけっこう来ていただけていたように思う。</p>
田村委員	<p>ちょっとでも学べるものがあれば集まると思った。大人が楽しくできることであれば色々なことにつなげることができると思う。</p>
岩崎副委員長	<p>新しい発想にしていくとなれば、原本にある本に対するマンガなど、社会問題の回答をくれるようなマンガを入れるのはどうか。読書の入口を楽しみから入るような感じで。</p>
図書館長	<p>以前分室からそのようなマンガを置いてほしいという要望があった。その際、悩んで学校の先生にも相談をした。マンガで勉強をしたと思ってそれで終わってしまって、次につながればいいが。ということになり、あえて置く必要はないのではないかと考えた。買わないわけではなく、積極的に活字の方を買うということ。置く場所も考えていてマンガコーナーに置くのではなく、それぞれの分類のところへ置いてみたりという配慮はしており、隣の本へ結びつくようにしている。</p>
山田教育長	<p>読書の層は広がっている、ネットを使う層などもある。もう一度柔軟に捉え直す必要がある。従来の発想の上に立って図書館に市民を引っ張って置いては遅れていってしまうと思う。</p>
矢崎委員長	<p>今の図書館のあり方、何のために図書館システムがあるのかなど議論していかないといけなくなってしまう。いずれは議論が必要になってくることだと思うが、また別の時に議論していきましょう。</p>
矢崎委員長	<p>5 その他  長野県立図書館が「信州学び創造ラボ」というものを予算をつけて始めるという話があった。伊那の図書館などと連携させて進めていくという話もある。その内容がわかれば教えていただきたい。</p>
図書館長	<p>長野県立図書館の方へ問い合わせをした。詳しく知っている職員は館長のみで、館長に聞いたところ核となる図書館にそのような機能を持たせることで、長野県立図書館と連携するような絵を描いているということだった。県としてもまだまとまっていないようだった。</p>